

令和7年度 地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業

(そにっとキャンプ・旅立ちのキャンプ)

- [主 催] 体験の風をおこそう in 奈良
[後 援] 奈良県教育委員会、名張市教育委員会、宇陀市教育委員会、京都市教育委員会
[期 日] 令和7年11月29日（土）～11月30日（日）
[場 所] 国立曾爾青少年自然の家 及び その周辺
[対 象 者] 発達に特性がある児童生徒や不登校など集団（学校）生活に困り感のある小学校4年生～中学校1年生の児童生徒とその保護者きょうだい
[講 師] 別府哲氏（岐阜大学教育学部教授）
[参加/募集] 児童生徒13名／13名
[担 当] 森岡亮平・増田学・菱川裕輝（企画指導専門職）
大向満・百田恵美・畠山朝浩（事業推進係）



1 趣 旨

これまで体験を共有した仲間と共に自分たちでよりよいキャンプを創ることを通して、今まで知らなかった自分のよさを再発見できるようにする。

2 ねらい

- ① 自分たちだけのキャンプを創る。
- ② 新しい自分と出会い、「旅立ちのキャンプ」を満喫する。
- ③ 困り感をもつ保護者が繋がり、おもいを共感したり頼ったりすることの大切さに気付く。

3 プログラム展開

11/29 (土)	10:30 受付	11:00 始まりの会	12:00 昼食	13:00 自分たちで創るキャンプ	17:00 入浴	17:45 夕食	19:00 CDF	21:00 就寝
11/30 (日)	6:30 起床	7:45 朝食	9:00 炊事プログラム	13:00 ふりかえり	14:00 終わりの会	14:30 解散		

4 活動の様子



5 ふりかえり（アンケートより・趣旨やねらいに対してのふりかえり）

・子どもたちからは、「キャンドルファイヤーとラーメン作りが楽しかった。」「旅立ちのキャンプは今までのキャンプを思い出せるキャンプで良かった。」「職員やボランティアが話を聞いてくれて良かった。」など、2日間満喫することができていたようだ。全体を通して旅立ちのキャンプを自分たちで創ることができていたようだ。「班の友だちが優しかった。仲良くなれて嬉しい。ありがとう。」といった振り返りもあり、たくさんのつながりが生まれたことも良かった。年間3回のキャンプの成果だと思う。

・保護者の方からは「学びもあり、リラックスもあり、楽しかった。」「子どもとの接し方について、色々なアドバイスや情報を得ることができて良かった。」「別府先生の講義が子育てについてとても勉強になった。もっと話が聞きたかった。」「森林浴はとてもリフレッシュできて良かった。」など、保護者同士繋がったり、おもいを共有したりすることができていたように感じる。そにっとキャンプの保護者プログラムの必要性を再認識した。また、「ボランティアもこのそにっとキャンプ出身の方も多いので、参加者の子どもの気持ちに寄り添ってもらえると思うと安心」といった声も多く、ボランティアの存在の大きさを感じた。